

講義名	リーダシップ養成 B			
担当教員	石黒 太 / 南木 睦彦			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4時限	授業形態	演習	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

このシラバスは2021年2月に対面授業を前提に作成している。新型コロナウイルス感染症の状況によってはシラバスの修正の可能性がある。前期と同様に「対面のみ実施」「対面とオンデマンドの並行実施」の2タイプが実施される場合は、「対面のみ実施」の科目として実行する予定である。

リーダシップ論等を知り、グループで活動することを通して、自らの特徴を生かしてリーダシップを発揮する力を養う。さらにはその力を、実際に発揮する。

まずリーダシップとは何かを学ぶ。次に講義前半では、2021年度等の「自己発見とキャリア開発A」等の「気づきの教育」を振り返り共有した上で、「Ryuka 祭」の実施と関連して独自の展示物等を作成する。講義後半では、2022年1月頃～2022年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成したりする。その中には2022年度の「自己発見とキャリア開発A」のいくつかのプログラムも含まれている。

この科目と共に前期の科目である「リーダシップ養成A」も受講し、「自己発見とキャリア開発」のCAとしての能力向上をしていただくことも期待している。CAとして登録されない場合でも、本学の様々な活動の場面でリーダシップを発揮することを期待している。

到達目標

- 自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができるようになる。
- 「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができるようになる。
- Ryuka 祭の実施と関連してリーダシップを発揮して活動することができるようになる。
- 様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができるようになる。

提出課題

様々なワークシートを授業内で作成する。
「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を示したRyuka祭と関連した展示物を作成する。
2022年1月頃～2022年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出物については、授業中に講評したり返却したりする。

評価の基準

授業への積極的な参加、成果物の出来栄、Ryuka祭と関連して、この科目で身に付けたリーダシップを発揮したかどうか、を総合して評価する。

履修にあたっての注意・一言他

この科目では授業時間外に、Ryuka祭と関連した展示物作成等をグループで実施するので、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。あらかじめ心づもりをして受講していただきたい。また、この科目の受講者には、ぜひ2022年度の「自己発見とキャリア開発」CAとして登録していただきたい。そして、この科目で学んだリーダシップを生かして、2022年の春休み中に入学前教育の「先輩交流」等の担当や運営補助をお願いしたい。またさらに2022年度の「自己発見とキャリア開発」のCAとしては、「先輩交流」を担当すると共に、担当教員のクラス運営への協力をお願いしたい。また、一部のプログラムでは、ファシリテータとして活躍していただく可能性もある。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

授業中に配布する

授業計画

基本的には対面授業で実施する予定です。
シラバス(試験時の予定であり、受講生等により変更する可能性があります)

- キックオフ（講義の狙い、アイスブレイク、チーム形成）
- リーダシップとは何か
- 気づきの教育振り返り・共有
- Ryuka祭関連展示立案チーム活動1
- Ryuka祭関連展示立案チーム活動2、中間発表・相互評価
- Ryuka祭関連展示立案チーム活動3
- Ryuka祭関連展示立案チーム活動4
- Ryuka祭展示立案最終発表、Ryuka祭前日～当日予定作成

授業時間外活動：Ryuka祭関連展示前日等準備、来訪者への説明等の活動をする。

- Ryuka祭振り返り、各種のプロジェクトの説明、チーム形成
- プロジェクトごとのチーム活動1
- プロジェクトごとのチーム活動2
- チーム活動結果と中間発表と相互評価
- プロジェクトごとのチーム活動3
- プロジェクトごとのチーム活動4
- プロジェクトごとの計画最終発表、全体まとめと今後の予定の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A～L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学期ならびに大学設置基準では1回の講義について48時間の自己学習が必要とされている。
授業時間外に、前まではRyuka祭関連展示の作成をし、後半ではプロジェクトごとに検討・発表の準備をするなど、チームごとに打ち合わせ等の時間が必要になる。また、Ryuka祭関連展示前日等準備し、Ryuka祭当日に来訪者への説明等の活動をする。この様な事情で、授業時間外の学習時間が相当長くなる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学の学生が、卒業時に共通して身につけていることを求められている能力と本科目の到達目標は次のように関連している。
「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる。」という目標は、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の要素である。情報思考力、情報分析力、課題解決力、課題力と関連している。
「自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができる」「Ryuka 祭の実施と関連してリーダシップを発揮して活動することができる。」「様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができる。」という到達目標は「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」としての能力養成と関連している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業はグループワークを通じて、受講生間並びに受講生と担当教員間で相互啓発的な形で進めます。

実務経験の有無及び活用

備考